



ひらかたの

大切な自然・生きものを
まもろう！

枚方ふるさといきもの調査より

2013



枚方市

もくじ

01	今回の調査で見つかった生きものの種類
02	枚方の生きもの・自然・みどり
03	枚方のみどり
04	
05	植物
06	ほ乳類
07	鳥類
08	昆虫類・ホタル
09	両生類・は虫類
10	淡水魚・水生生物
11	外来生物！…いれない！すてない！ひろげない！
12	生きもの・自然そして生物多様性を守る取り組みへ
13	自然・みどりのネットワーク
14	わたしたちは何をすればいいの？
15	ふれたい！知りたい！枚方の生きもの・自然

生きもの・自然・豊かなつながりを 守り、伝えるために

枚方市では、市内の自然環境の変遷を把握するため、昭和 63 年から
おおむね 5 年ごとに調査を実施し、平成 23(2011)年 7 月から 2 年をかけて
第 5 回「枚方ふるさといきもの調査」を行いました。

今回の調査は、市内の植物・動物や自然環境の最新情報を調べ、それらを
守り活かす取り組みを考えていくことを目的として実施しました。

また、平成 20(2008)年には、生きものたちの豊かな個性とその恵み
などのつながりを守り活かすための法律(生物多様性基本法)も
施行され、そうした取り組みがますます大切になってきています。



今回の調査で 見つかった 生きものの種類

この表の中で例えば植物の種数は 909 種と 1,364 種ですが、参考として大阪府内全体の種数を紹介しますと 2,436 種(府野生生物目録:平成 12 年)です。比べてみてください。

こうした数字は、東部の里地里山や平野部の農耕地、そして淀川などが織りなす枚方市ならではの環境を映しだしています。

今回の調査で確認された市内の動植物の種類は以下の表のようになりました！
表の右側の数は、平成 14 年から市内で動植物調査を続けている「枚方いきもの調査会」と、平成 17 年から穂谷地区で動植物の生息状況を追っている「モニタリングサイト1000里地調査」(詳しくは裏表紙を参照)のデータを含めたものです。

分 類	今回の「枚方ふるさといきもの調査」のデータ		[参考]枚方市内で行われている 2 つの調査データを含めたもの	
ほ乳類	11 科	15 種	11 科	15 種
鳥 類	32 科	97 種	39 科	151 種
両生類	6 科	10 種	6 科	10 種
は虫類	7 科	11 種	7 科	11 種
淡水魚類	12 科	33 種	12 科	45 種
昆虫類	144 科	485 種	231 科	1705 種
植 物	141 科	909 種	161 科	1364 種
合 計	353 科	1560 種	467 科	3301 種

枚方の生きもの・自然・みどり

山田池周辺



淀川堤防



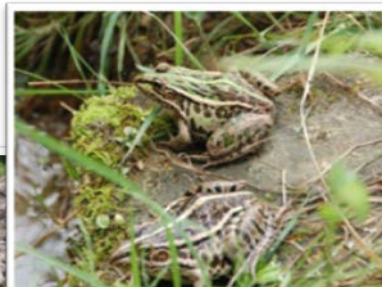
尊延寺・棚田



天野川周辺



穂谷周辺



枚方のみどり

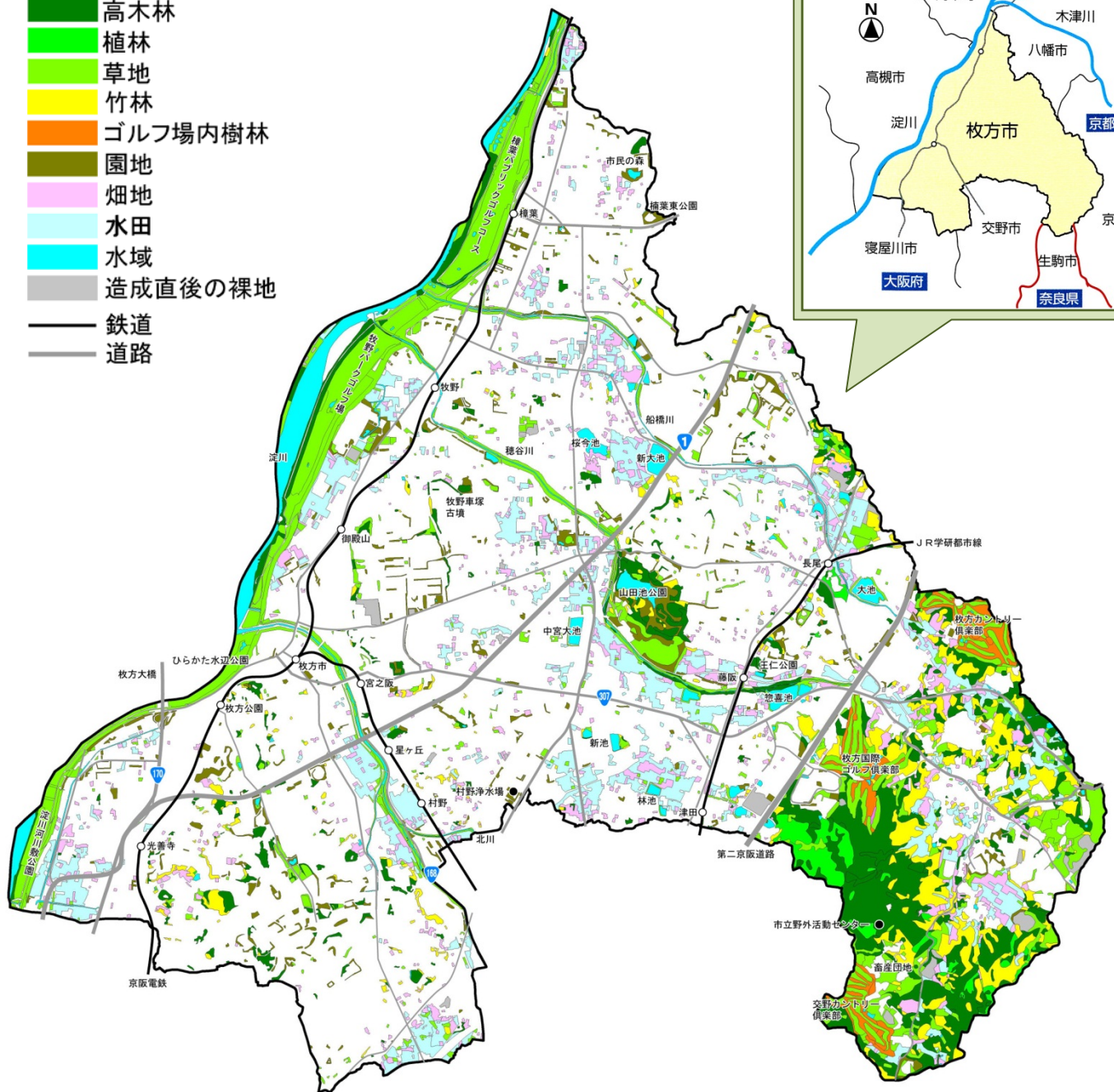
植生マップ



下の図は、枚方市の全域を写した航空写真や現地調査をもとに作った
みどりの地図「植生マップ」です。市内の自然・緑の様子を観てください。
あなたのお住まいのあたりは、どんな様子でしょう？

凡例

- 高木林
- 植林
- 草地
- 竹林
- ゴルフ場内樹林
- 園地
- 畑地
- 水田
- 水域
- 造成直後の裸地
- 鉄道
- 道路



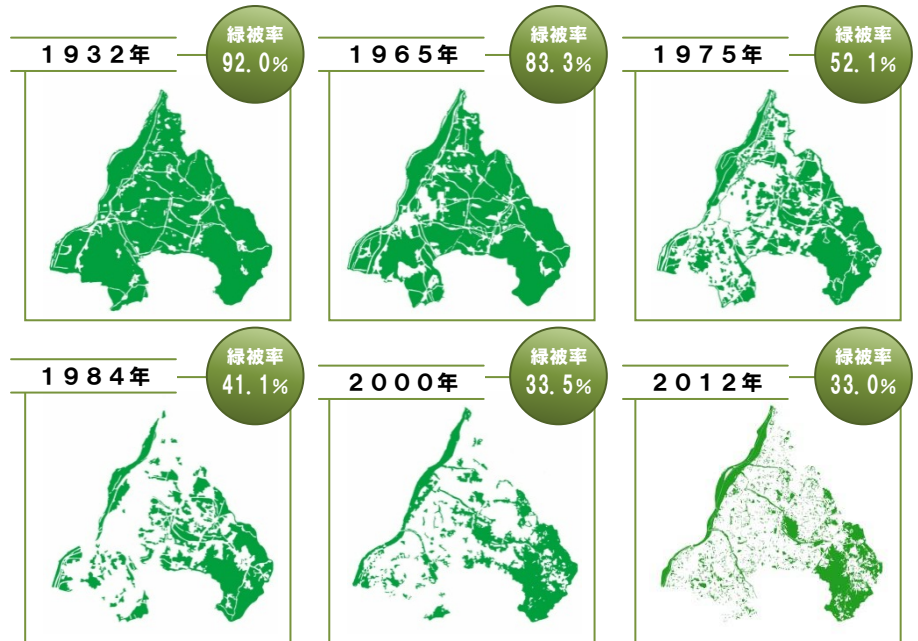
1000 0 1000 2000 3000m

緑被率の変化

今回の調査における緑被面積(※1)は、平成24年(2012年)で約2,149ha、正方形にすると一辺約4.6kmです。緑被率(※2)は平成12(2000)年が33.5%、平成19(2007)年が31.8%で、今回は33.0%となりました。

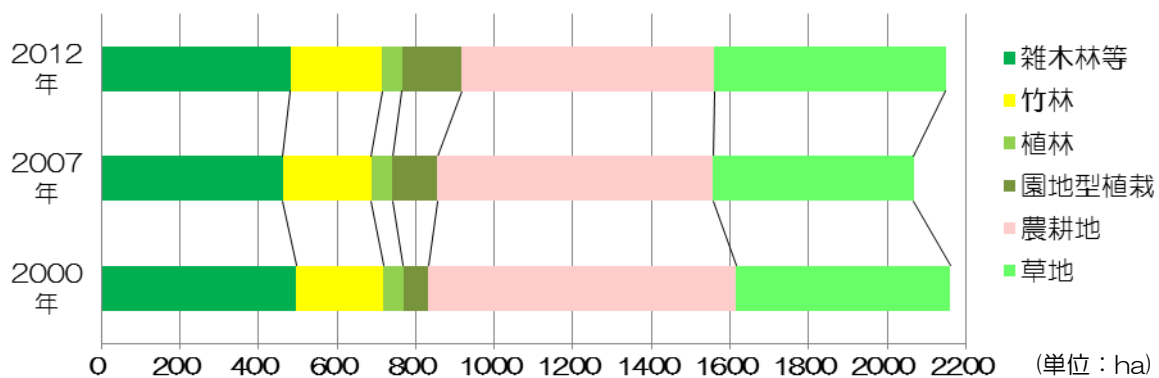
(※1) 雑木林、竹林植林、園地型植栽、農耕地、草地などの緑に被われた面積

(※2) 市域面積に対する緑に被われた部分の割合



緑被面積の推移

農耕地が最も大きく減っており、広葉樹林(雑木林等)は横ばい状態です。一方、竹林は周辺の林などへ拡大しており、生物多様性の低下要因として問題化しています。



大切な孤立林

平野部を中心に点在する孤立林は、市街地のなかの貴重な生きもののすみか・自然、オアシスです。今回の調査では、10年前の調査で抽出した孤立林50箇所で、樹種や林内の様子、野鳥などについて調べました。

その結果、長尾荒阪、菅原神社(長尾)、山田池公園、津田東町、走谷、東中振、香里園桜木町、春日神社(茄子作)の8箇所は、生きもののすみかや自然の連続性を維持していく核になると考えられます。

また、この8箇所の孤立林は、市内の中東部地域や南西部・南部地域にあり、楠葉周辺の北部地域や穂谷川と天野川に挟まれた中部・中南部地域には孤立林はほとんどありません。こうした空白地帯では、小規模な様々な緑地の連続性を高めることや個々の自然の豊かさを高めていくことが大切です。

植 物

枚方の生きもの・自然をみていくうえで大切なのは、まず、私たち動物たちをはぐくんでくれる植物。調査では 141 科 901 種が見つかりました。内訳は表のとおり。他の2調査のデータも含めると 161 科 1,364 種にものぼります。

東部地域の穂谷、尊延寺にはまとまった森林をはじめ水田や畑地等の耕作地、河川、ため池など様々な環境も残されているため、豊かなものとなっています。



チゴユリ

以前は普通にみられた種が・・・

「絶滅のおそれのある種」ではないものの、以前はよく見られたのに目立たなくなってきた植物も多くなりました。

オドリコソウ



ツクバキンモンソウ



コウヤボウキ



タツナミソウ



フデリンドウ



ウマノアシガタ



チゴユリ、オドリコソウ、タツナミソウ、フデリンドウ、ミゾカクシ… こうした草花を「絶滅のおそれのある種」にしないように、生息環境を守っていききたいものです。

次々に希少な植物に…

希少種(※)はギンランやツクバキンモンソウなど 30 種を確認。穂谷、尊延寺、淀川でその多くが確認され、希少植物の生育環境という点から重要な地域といえます。

水がきれいな池などにみられるジュンサイは、前回調査で見つかっていましたが今回は見つからず、絶滅の可能性も考えられます。ため池に生息するイヌタヌキモは確認されましたが、その環境の維持が大切です。

ギンラン



※希少種＝「絶滅のおそれのある野生生物」を記載する「環境省レッドリスト」や「近畿地方の保護上重要な植物」(改訂)、「大阪府における保護上重要な野生生物」などにあげられた種

分類群		全体		淀川		水田		船橋川		天野川		尊延寺		穂谷	
		科	種	科	種	科	種	科	種	科	種	科	種	科	種
シダ植物		21	88	7	11	5	5	1	1	0	0	21	61	18	71
種子植物	裸子植物	5	6	0	0	0	0	1	1	0	0	3	4	5	6
	被子植物	115	815	63	311	52	172	46	126	59	264	95	505	105	582
合 計		141	909	70	322	57	177	48	128	59	264	119	570	128	659

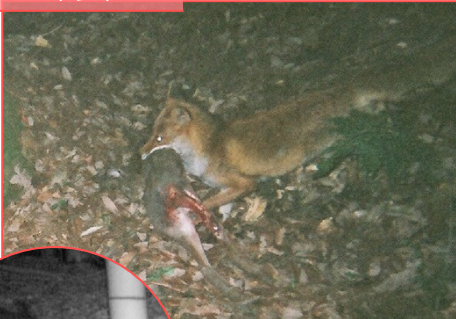
ほ乳類

様々な動植物をエサとして生きているほ乳類は、11 科 15 種が確認できました。種類は穂谷が 13 種と最も多く、次いで淀川、長尾荒阪、尊延寺。いずれも生息地となる森林がまとまって分布し、草地や水辺など様々な環境も含まれている地域です。希少種としては、ニホンリス、カヤネズミ、キツネが確認されました。一方、今回調査ではアライグマ、ヌートリア、ハクビシンなどの外来種も確認され、数の増加が懸念されます。

ノウサギ

定点カメラに映ったほ乳類たち

キツネ



ウサギを捕食するキツネ

テン



イタチ



ニホンリス



タヌキ



特にキツネのような肉食が中心のほ乳類は、生息する地域の生態系の「上位種」といわれ、その生息は他のほ乳類や鳥類、は虫類など様々な生きものに支えられています。まとまって広がる豊かな里山の生態系を特徴づけるものといえます。キツネは、穂谷、尊延寺、長尾荒阪で確認されました。

科 名	種 名	調 査 地 域					
		淀川	天野川	藤阪	長尾荒阪	尊延寺	穂谷
モグラ科	モグラ科の一種	○	—	—	○	○	○
オナガザル科	ニホンザル	—	—	○	—	—	○
ウサギ科	ノウサギ	—	—	—	—	○	○
リス科	ニホンリス	—	—	—	—	—	○
ネズミ科	カヤネズミ	○	—	—	—	—	○
	ハツカネズミ	—	—	○	○	—	—
	ネズミ科の一種	○	—	○	○	—	○
ヌートリア科	ヌートリア	○	○	—	—	—	—
アライグマ科	アライグマ	○	○	○	○	○	○
イヌ科	タヌキ	○	○	○	○	○	○
	キツネ	—	—	—	○	○	○
イタチ科	テン	○	—	—	○	○	○
	イタチ科の一種	○	○	○	○	○	○
ジャコウネコ科	ハクビシン	—	—	—	—	—	○
イノシシ科	イノシシ	—	—	—	—	—	○
合計 11 科	15 種	8	4	6	8	7	13

鳥 類

移動性が高く季節的な特徴も強い鳥類。調査では、32 科 97 種を確認しました。地域別では淀川が 63 種と最も多く、次いで藤阪、長尾の順です。淀川はまとまった水辺を中心に樹林、草地などが程よく分布し、冬鳥の飛来地としてもよく利用されるためとみられます。他の 2 調査のデータも含めると 39 科 151 種になります。

豊かな生態系の指標とされる猛禽類では、オオタカ、ハイタカ、ノスリ、トビ、ハヤブサ、チョウゲンボウの 6 種が確認されました。今回確認できなかった種は、サシバ、クマタカ、シロチドリ、タゲリなど 13 種。これらの中でも、サシバは連続した棚田や林などが一体となった里地里山などで繁殖する種で、そうした環境が少なくなってきたことがうかがえます。

写真の鳥たちは、山野や草地、水辺など、それぞれの環境によくみられる種です。

ノスリ



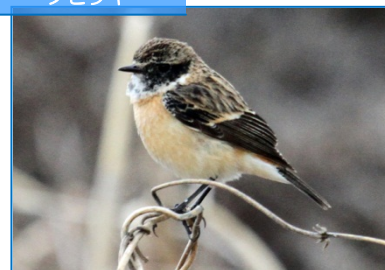
ヒバリ



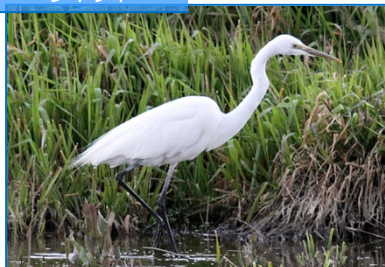
コムクドリ



ノビタキ



ダイサギ



ケリ



コチドリ



希少種は 29 種を確認。淀川、藤阪(穂谷川)、長尾(船橋川)、津田が多く、その水辺は重要な地域であるといえます。

目名	調 査 地 域								
	淀川	孤立林	天野川	山田池	藤阪	長尾	津田	尊延寺	穂谷
カイツブリ目	3	0	1	0	1	2	1	0	1
ペリカン目	1	0	1	1	1	1	1	0	1
コウノトリ目	3	0	4	1	4	4	3	2	1
カモ目	10	0	7	7	7	11	7	2	1
タカ目	7	0	1	1	3	3	0	6	3
キジ目	0	0	0	0	0	0	0	2	2
ツル目	1	0	0	1	1	1	2	0	0
チドリ目	4	0	5	0	4	5	4	1	2
ハト目	2	2	2	2	2	2	2	1	2
カッコウ目	0	0	0	0	0	0	0	1	0
アマツバメ目	0	0	0	0	0	0	0	1	0
ブッポウソウ目	1	0	1	1	1	1	1	1	0
キツツキ目	2	1	1	1	2	1		2	1
スズメ目	29	17	20	11	27	21	25	22	25
合計 32 科 97 種	63	20	43	26	53	52	46	41	39

昆虫類・ホタル



動物のなかで種の多様性が高い昆虫類。調査では、14 目 144 科 485 種を確認しました。いずれの調査地域も草地と森林の環境を備えているため、チョウ目や、コガネムシ類を含むコウチュウ目、セミ類を含むカメムシ目、ハチ目、バッタ目が多くみられました。地域別では、穂谷 394 種、淀川 150 種、尊延寺 145 種などで、穂谷が突出して多くなりました。穂谷は森林、耕作地などの植生環境、ため池、水路など多様な環境が存在することから確認種数が多いと考えられます。

淀川は、水辺から堤防の草地まで多様な植生環境があることから多くの種数がみられると考えられます。他の 2 調査のデータも含めると 17 目 231 科 1,705 種にのぼりました。

ハラヒロトンボ



アカタテハ



ミヤマフキバッタ



希少種は、フタスジサナエ、クツワムシ、シロシタバ(チョウ目)、ヒメヤママユ(同)など 9 種が確認されています。また、ため池に生息するヤスマツアメンボは淀川を除くすべての地域で確認されています。

前回確認された希少種のうち、ナニワトンボ、ネキトンボ、イトアメンボの 3 種は今回確認されませんでした。ナニワトンボ、ネキトンボは、池や沼の消滅や改修などが生息の脅威となります。

オオアメンボ



目 名	調査地域	調 査 地 域				
		淀川	茄子作	ため池	尊延寺	穂谷
トンボ目	30	7	3	16	15	24
ゴキブリ目	2	0	0	0	1	1
カマキリ目	4	3	0	0	4	4
カワゲラ目	1	0	0	1	1	1
バッタ目	45	13	1	1	16	40
ナナフシ目	3	0	0	1	0	3
カメムシ目	74	29	3	15	22	50
アミメカゲロウ目	1	1	0	0	0	0
シリアゲムシ目	1	1	0	0	1	1
トビケラ目	3	0	0	1	0	2
チョウ目	133	30	6	2	43	122
ハエ目	42	11	0	3	14	33
コウチュウ目	94	33	0	7	14	76
ハチ目	52	22	1	0	14	37
合計 14 目 144 科	485 種	150	14	47	145	394

ゲンジボタル



ホタルは、前回も調査した市街地に残る緑地でヒメボタルと、東部の河川でゲンジボタルを確認することができました。

また公園の水路でもゲンジボタルとヘイケボタルを確認しました。

今回の調査地ではいずれも個体数が少なく、生息環境の保全の取り組みが大切です。

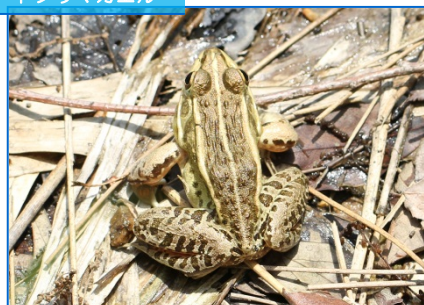
両生類・は虫類

全国的に減少が懸念される両生類・は虫類。調査ではそれぞれ2目6科10種、2目7科11種を確認しました。穂谷、長尾荒阪、尊延寺の3地域で全種が確認されています。これらの地域は、水田やため池、小河川など水辺と周辺の森林が連続しており、両生類の生息に適した環境が豊かなことや、両生類が豊富なためそれをエサとするヘビ類も多く生息していると考えられます。一方、淀川、天野川は、両生類の生息に適したたまりなどの水域がほとんどないことが種数の少なさにつながっているようです。



ニホンイシガメ

トノサマガエル



アカハライモリ



ニホントカゲ



希少な両生類は、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、トノサマガエル、シュレーゲルアオガエル、希少なは虫類は、ニホンイシガメ、ヒバカリ(ヘビ類)。絶滅危惧Ⅱ類のカスミサンショウウオは、里山の水田や溪流の小さな水たまりなどに産卵し、周辺の森林の落葉層の中へ移動する特性があり、里山の森林の状態や環境の連続性をみるうえで重要な種です。

	科 名	種 名	調 査 地 域					
			淀川	天野川	藤阪	長尾荒阪	尊延寺	穂谷
両生類	サンショウウオ科	カスミサンショウウオ						○
	イモリ科	アカハライモリ						○
	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル				○		
	アマガエル科	ニホンアマガエル			○	○	○	○
	アカガエル科	ニホンアカガエル				○	○	○
		トノサマガエル			○		○	○
		ヌマガエル			○	○		○
		ウシガエル	○	○		○	○	○
		ツチガエル			○	○	○	○
	アオガエル科	シュレーゲルアオガエル					○	
は虫類	イシガメ科	クサガメ		○	○	○	○	○
		ニホンイシガメ			○	○	○	
	ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ	○	○		○		
	ヤモリ科	ニホンヤモリ						○
	トカゲ科	ニホントカゲ	○				○	○
	カナヘビ科	ニホンカナヘビ			○	○	○	○
		シマヘビ				○		○
		ジムグリ			○			○
		ヒバカリ						○
	ナミヘビ科	ヤマカガシ						○
		ニホンマムシ				○	○	
2 網	合計 13 科	21 種	3 種	3 種	8 種	12 種	11 種	16 種

淡水魚・水生生物

水辺環境のシンボル、淡水魚。調査では7目12科33種を確認しました。多い順では天野川23種、穂谷川20種、船橋川16種など。これらの河川は直接淀川につながっているため、魚の行き来があることや、流れのできる砂のたい積場所や植生帯など環境が多様であることから多くの種が確認できていると考えられます。枚方いきもの調査会のデータも含めると7目21科45種の確認となりました。

特に天野川については、回遊魚で清流などにすむアユがあがってきている場所であることがわかり、今後注目されます。

市内の川の魚たち

カマツカ



アユ



ギギ



オイカワ



前回調査で確認され今回確認されなかった種は、ゲンゴロウブナ、ハス、オオヨシノボリの3種。

調査時に確認された貝類、甲殻類等の水生生物は、8科10種。ヒメタニシ、カワニナ、ミズムシ、ヌマエビ、テナガエビ、スジエビ、モクズガニ、スクミリンゴガイ、ミナミヌマエビ、アメリカザリガニでした。

科名 ＜一部不掲載＞	種名 ＜一部不掲載＞	調査地域				
		穂谷川	天野川	船橋川	出口・渚水路	ため池
コイ科	コイ	○	○		○	○
	ギンブナ	○	○	○	○	
	フナ類			○		○
	カネヒラ				○	
	タイリクバラタナゴ	○			○	
	オイカワ	○	○	○		
	カワムツ	○	○	○		
	ヌマムツ		○			
	モツゴ	○	○	○	○	○
	タモロコ	○	○	○		○
	ゼゼラ	○				
	カマツカ	○	○	○		
	コウライニゴイ	○	○			
	コウライモロコ	○		○		
ドジョウ科	ドジョウ	○	○	○		○
ギギ科	ギギ		○			
ナマズ科	ナマズ		○			
アユ科	アユ		○			
メダカ科	メダカ	○	○	○	○	○
タウナギ科	タウナギ	○	○			
サンフィッシュ科	ブルーギル	○	○			○
	オオクチバス	○	○	○		○
ドンコ科	ドンコ	○	○	○		
ハゼ科	トウヨシノボリ				○	○
	カワヨシノボリ		○	○		
	ウキゴリ					○
合計 12科	33種	20	23	16	7	11

外来生物！…

いれない！ すてない！ ひろげない！

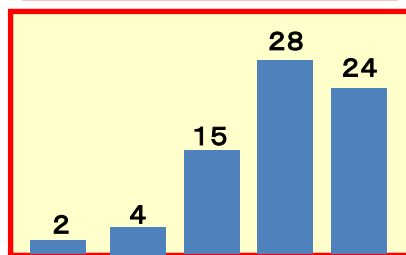
外来生物 とは？

もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によってほかの地域から入ってきた生物のことです。日本の野外に生息する外来生物は、2,000 種を超えるといわれています。アライグマなど、強い繁殖力や運動力などで、もともとすんできた動植物（在来生物）を食べたり、すみかを奪ったりするものもあります。農業にも被害を与えますが、もとの自然環境を変えてしまったり、こわしたりしており、こうした状況は日本でみられ、大きな問題になっています。



アライグマ

枚方市でのアライグマの捕獲数（頭）



(平成)20年度 21年度 22年度 23年度 24年度

今回の調査などで多数確認

アライグマ

淀川から森林が残る東部まで全調査地域で見つっています。在来種の小鳥や小動物などが食べられたり、農作物に被害が出たりする悪影響が出ており、捕獲などによる駆除が重要になっています。

ヌートリア

淀川と天野川で見つっており、枚方ふるさといきもの調査では初めて確認されました。水鳥のエサとなる水生植物を食べ荒らしたり、巣を掘って田畑を荒らしたりする悪影響が出ています。

ミシシッピ アカミミガメ

夜店などで売られている通称ミドリガメ。天野川で大量に確認されました。飼育されていたものが捨てられ繁殖しているとみられます。在来種の水辺の生物を食べ荒らすなどの影響が考えられます。

ミシシッピアカミミガメ



ウシガエル

藤阪を除く全調査地域で見つっています。水辺の生物をはじめ、小型ほ乳類や鳥まで食べてしまいます。

ウシガエル



オオカサ ブラックバス ブルーギル

穂谷川や天野川、平野部のため池などで見つっています。どちらも在来種の魚の卵や稚魚などを食べてしまうなど深刻な被害が広がっています。

外来生物 その対応は

外来生物問題は、私たちの生活と密接にかかわっているため、市民のみなさんの理解と適切な協力が必要になっています。

いれない！

悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに持ち込まない。ペットは最後まで飼い通しましょう。

すてない！

飼っている外来生物を野外に捨てない。飼えなくなったペットを放すことが深刻な影響を招いています。

ひろげない！

野外にすでにいる外来生物を探ったりして、ほかの地域にひろげない。エサを与えるのも避けましょう。

夏休みが終わっても、飼っている外国のカブトムシ・クワガタは外に逃がさないで！

生きもの・自然そして生物多様性を 守る取り組みへ

私たちへの
恵みも生物の
多様性から

今回の調査では合計 1,560 種の動植物が確認できました。こうした様々な生きものや私たちヒトは、つながりあって生きており、ヒトもその恵みを受けて生活しています。生きものたちの豊かな個性とその恵みなどのつながりを「生物多様性」といいます。

ところが、地球上の生物の種の絶滅のスピードは自然な状態の

約 100～1,000 倍にもなっており、生物の多様性は危機的な状況といわれています。日本では野生の動植物の 4 分の 1 程度が絶滅のおそれのある種となっています。こうした危機の主な要因は、人間の活動なのです。

枚方における生物多様性の状況

開発などによる 種やすみかの減少

1960 年代以降の都市化により、森林や田畑などが大幅に減少し、動植物の生息場所が失われて種類も減りました。

人間との関わりが薄れる ことによる自然の荒廃

東部地域の里地里山などの林は、人の手が入らなくなって荒れてヤブ化し、竹林も広がり自然度が低下しています。

外来生物の 持ち込みなど

アライグマやヌートリアなどにより、もとも生息している動植物が食べられるなどの影響が出ています。（詳しくは 11 ページを参照）

地球温暖化による 種の減少や絶滅など

南方系のチョウなど昆虫の確認により、地球温暖化による影響が及んでいる可能性が考えられます

生物多様性の保全に向けた課題は

それでは、生きもの・自然そして生物多様性を守り、活かしていくには、どのような考え方や取り組みがあるのでしょうか。

1

生物多様性やその保全について、より多くの人に伝えて、理解してもらい、行動につなげる必要があります。

2

開発に対する自然の保護や里地里山の保全などの取り組みは、様々な主体が協働して行える仕組みづくりが大切です。

3

様々な保全の取り組みやその活動を担う人材や仕組みを充実させるため、人づくり・組織づくりも重要です。

4

適切な取り組みを行うには、動植物などのデータや知識が必要です。継続的な調査活動や自然観察での情報集めなどが大切です。

枚方ふるさと
いきもの調査
調査員の意見は…

- 里地里山保全の強化
- 開発の抑制や規制、影響軽減の強化
- 農業振興や、耕作放棄の防止・解消のための取り組み
- 土木公共事業における生きもの・自然への配慮
- 河川や農耕地での水系のつながりの確保

生物多様性保全の取り組みは、様々な主体が情報を共有し、みんなで連携して行うことが大切です。

自然・みどりのネットワーク

生物多様性の保全の取り組みは、ほかにもあります。

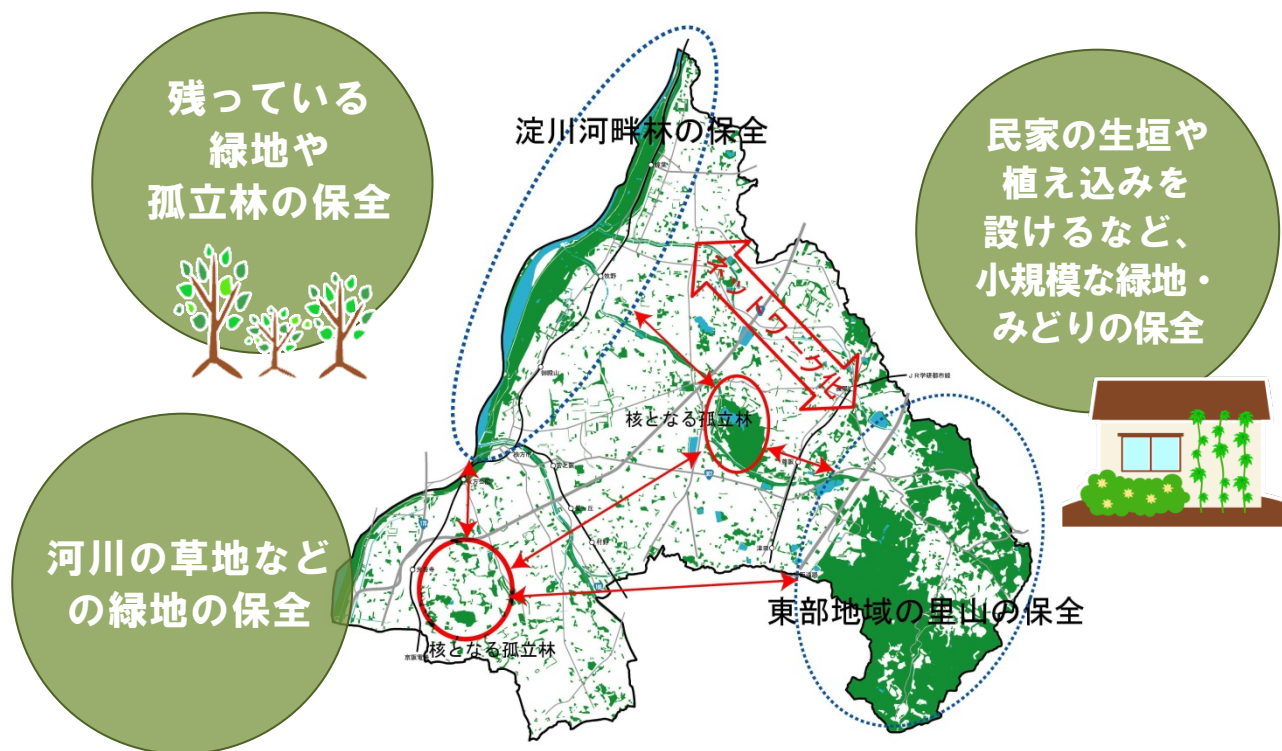
残された緑地を利用してネットワーク化し、緑豊かに生物多様性を高めていくことです。枚方では東部地域を除いて市街化が進んでおり、大規模な緑地がありません。そこで、自然・みどりをつなげる考え方です。

東部地域にはまとまった里山の樹林域が広がり、西部には淀川河川敷の河畔林などが連なっています。東・西の核となるこの樹林域をみどりのネット

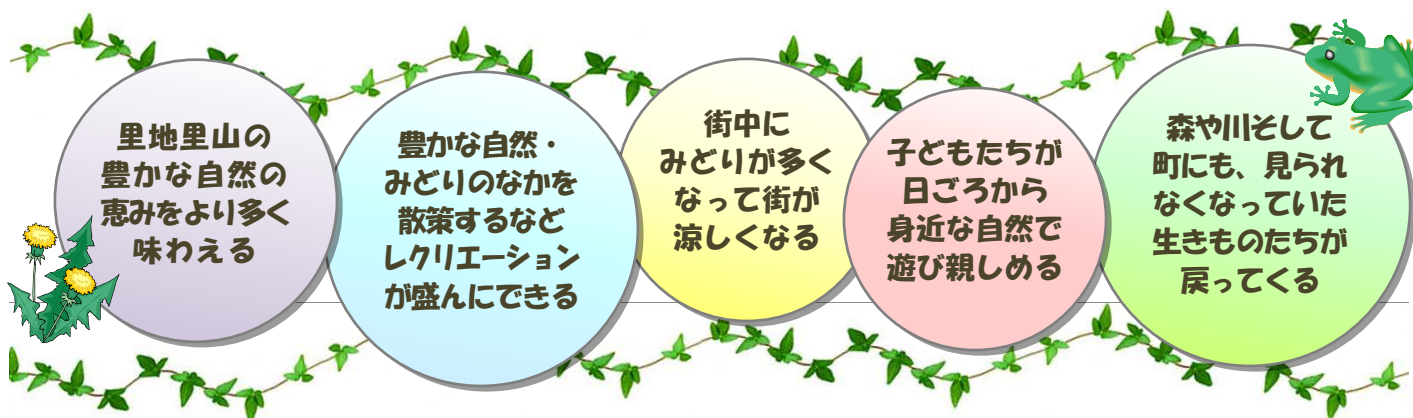
ワークでつなぎ、山と川の交流をはかっていければ…… 市域全体の生物多様性の向上にとって重要な視点の一つです。みんなで協力し、枚方をより自然豊かな市にしていきたいものです。



生物多様性の向上のために



そして自然が豊かになれば…





わたしたちは何をすればいいの？

枚方の生きもの・自然、それらを守り伝えていく取り組みを紹介してきました。
では、個人や家庭、事業者…私たちに何ができるのでしょうか。

第一歩としては、「生物多様性」を知り、私たちヒトも、生きもの・自然・その
つながりの中にいることを感じてください。

そして…

まずは、家庭・地域から…

- 生物多様性やその保全などについて、テレビや新聞、インターネット、本などで調べましょう。得た情報は、家族や友だち、学校、職場などに発信するようにしましょう。
- くらしの中で見たり感じられる生きもの・自然を大切にしましょう。野生の生きものをむやみに採ったり傷つけたりしないようにしましょう。
- 地域で行われている自然観察会や自然体験のイベントなどに参加しましょう。枚方市では夏から秋にかけて自然観察会を行っています。市民も楽しく参加できる自然調査の機会も増えており、次ページの2団体では生きものなどの調査を継続的に行っています。
- 山田池公園や淀川河川公園、地域の公園などの身近な自然にふれて、どんな生きものたちがすんでいるのか観察してみましょう。自然とふれあいながら、環境学習を行うこともできます。
- 田畑やため池など身近な自然を守るため、「地産地消」をめざして、地元でとれた農作物を優先的に購入・利用しましょう。

企業・事業者が出来ること

- 原材料は、なるべく地元の産物の利用を心がけ、「地産地消」を広げていきましょう。また、樹木や植物を植えるときは、外来種ではなく、なるべくその地域に自生している種を植えましょう。
- 会社や工場などの敷地でのビオトープづくりや地元の間伐材利用などにより、地域の環境保全に貢献しましょう。
- 事業活動によって、樹林を減少させるなど地域の自然を損なうことがないようにしましょう。
- 土木工事などでは、自然環境の保護保全に配慮した工法などを採用するようにしましょう。
- 社会貢献活動（CSR活動）などで、市内で行われている活動への参加やサポートを行っていきましょう。
- 地球温暖化対策は生物多様性の保全につながります。その取り組みも積極的に進めましょう。



ふれたい! 知りたい! 枚方の生きもの・自然

今回の調査には、「枚方いきもの調査会」から多くのメンバーが参加して貴重なデータを記録するとともに、同会で過去に蓄積したデータを提供していただきました。

また、穂谷で活動を行っている「モニタリングサイト1000里地調査・穂谷コアサイト調査」関係団体からも、日ごろの貴重な調査データを提供していただきました。

身近な生きもの・自然にふれたい! もっと知りたい! という方は、ぜひ活動にご参加ください。



■枚方いきもの調査会

10年前の枚方ふるさといきもの調査で市民調査の参加者がつくった市民団体。「残したい枚方の自然」を合言葉に市民自らの手で市内に残る自然の調査や保護に取り組む自主的な団体です。野鳥、植物、昆虫、メダカと魚の4部会があり、枚方市内各地で調査地を決めて月1~2回程度、調査会を行っています。会員には各分野の専門家もあり、会員は約120名。ボランティア精神に基づき、会員各自の自発性と合意を基本として活動しています。

枚方いきもの調査会

検索

■モニタリングサイト1000 里地調査・穂谷コアサイト調査

モニタリングサイト1000は、動植物の生育生息状況などを調べ続けるサイト(調査地点)を全国に1000か所程度設け、日本の自然環境の変化をとらえ保全に役立てようという環境省の取り組みです。穂谷は全国でも最も早く、多項目を調べる「コアサイト」となった地域で、植物、野鳥、ほ乳類、水環境、カヤネズミ、カエル、チョウ、トンボなどを調べています。登録されている調査員は約50名。こちらも市民が主体の調査で自主的な活動です。

モニタリングサイト 1000

検索

ひらかたの大切な自然・生きものをまもろう!

一枚方ふるさといきもの調査よりー2013

発行：枚方市 環境保全部 環境総務課

TEL 072-841-1221(代)

調査・編集協力：公益社団法人 大阪自然環境保全協会

写真提供：枚方いきもの調査会／谷川智一氏／中谷憲一氏

平成25年3月 発行

